



新型コロナの感染がいつに収まりそうもありません。今後どうなっていくのかが全く分からないことに大きな不安を感じます。テレビやラジオでは、毎日コロナ関係の報道が流され、コメントーターたちは、結果や予測に喧々諤々と意見を交わしているようです。しかし思うような結果は得られず、ワクチン接種の受け方も、結果がどうなるのかもすべてが未知のこととして、ますます不安と混乱は大きくなってきているようにも思えます。

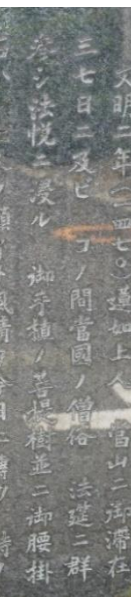
お釈迦様の言葉に「汝ら、過去の因を知らんと欲すれば、現在の果を見よ。未来の果を知らんと欲すれば、現在の因を見よ。」とあります。適切な引用ではないとは思いますが、我々人類のあり方を問い質す言葉として受け止めていけたらと思います。

世間では「コロナ禍」と言われ、どこからか降ってきたように思われ、まさに災禍として受け止めています。はたして本当にそうなのでしょうか。これは際限なく自然破壊を続け、生態系を崩し「住み分け」を無視してウイルスのゾーンにまで侵入した人間の招いた当然の結果なのではないでしょうか。「ウイルスと闘う」とも人間は言っていますが、これは禍福の問題でもなく、勝ち負けの問題でもありません。人間の都合ばかりを考えてきた、「足る」を知らない人間の愚かさへの警告と受け止めるべきだと思います。せめて宇宙だけでもそっとしておいてほしいものです。

## 蓮如上人ゆかりの寺を訪ねて

コロナ感染の拡大中ではあったが、連休の半日を近場の寺巡りにあてた。一ヶ寺は垂井町にある平尾御坊の願證寺、もう一ヶ寺は草道島にある西圓寺である。いずれも蓮如上人ゆかりの寺であるが、西圓寺は教如上人ゆかりの寺でもある。

最初に訪ねた西圓寺の周囲はお濠で囲まれ、山門の北側には教如上人を匿していることを欺くために、風体の似ていた住職が身代わりとして出立する際に、派手に打ち鳴らしたという太鼓堂が見える。その後住職は殺害され、教如上人は無事に京都に入られたという。石碑には蓮如上人はここに約三週間滞在されたことと記されていた。その間多くの僧たちがここを訪れ、法悦に浸ったという。なんとも美しく風情のある寺院で山門を望む外からの景観は格別である。



つぎに訪れた寺はこの地区では昔から平尾御坊として親しまれ、七堂伽藍が整えられた格式高い寺院。東本願寺第十七代法主真如上人から寛保3年(1743)寺紋として許された落牡丹紋と塀の5本の白線がそれを物語っていた。

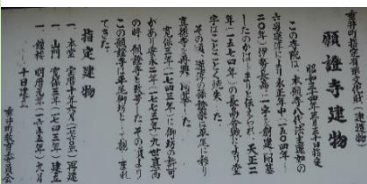


永正年間(1504~1521)に8代蓮如上人の6男蓮淳法印が三重県の長島町に開基したので始まりであるとされている。本堂、鐘楼、山門は垂井指定有形文化財に指定されている。また本堂裏、西には蓮如上人御廟所があるのだが、道筋がわか



らず断念。  
次回は機会があれば12世、宣如上人が西美濃触れ頭として任命された専勝寺、等學坊、永徳寺を有形文化財に指定されて訪ねてみようかと思っている。

※触れ頭とは本山と連絡を取り  
合つ役目をもった寺院のこと。



# 今月の掲示板

脇本陣だより『5月号』『サルらら』に掲載された「しりびな俳句」2句を紹介いたします。

最優秀賞 大垣市 E・Tさん

寺町へ光集めて梅まつり

最優秀賞 大垣市 T・K

花ひびひけて始める梅まつり



今年はコロナの関係で、観梅会は行いませんでしたが、来年はできることを願っています。

感想

・世間の興味関心が梅まつりに集まっていることが、「光集めて」に簡潔に表現され、町の様子も、人の思いも春めいてくる感じがよく伝わってくる。作中の「光」は「光受寺」の光を受け止めることもでき、心憎い作品です。改めて光を受ける寺とは良い寺がつけられたものだと思います。

・梅一輪一輪ほどの暖かさと「しりびな」句は芭蕉の弟子の服部風雪の作品だと言われていますが、いずれも梅の一輪によつて待ち焦がれた春の訪れが視覚を通して感じられるのです。「梅まつり」の始まりは地球上のすべてが躍動を始める兆しでもあるのではないかと感じます。

聞法とは

私が法を聞けい

ではなく

私を法に

聞けい

この文句は、宗祖聖人7500回忌御遠忌を記念に作成された「日めくり法語」カレンダーの中の15日目に載っている法語です。本山へ奉仕団として参詣した折に同朋会館の売店で手に入れました。

多くの人は、仏法は学ぶものだと思う込んでいってしまうのです。私もかつてはそう思い生きてきました。この法語にであったことからは、仏法への向き合い方も変わったように感じます。

自分の生き方が「これでよいのか」と常に思い起して生きているように感じます。光受寺学習会でも知識を身につける場ではなく、心を開き、学びあう場であることが理解の場にも進められていくことを感じます。

新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ

南無阿彌陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

— 問い続ける歩みをとむら。 —

3回目



## こころの散歩

浄土真宗に妙好人が輩出するわけ

在家で篤信の人を『妙好人』と言いますが、不思議なことに妙好人は数ある宗派の中でも浄土真宗だけから出ているのです。

これは親鸞聖人の教えが形式ではなく信心本位であるところに原因があると思われまふ。法然上人はまず念仏を申すことを強調されました。これを受けて聖人はさらに御仏の慈悲に感激する中で起る念仏を大切にされました。これは歎異抄の第一段「弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて、往生をばいふなりと信じて念仏もうさんとおもいたし」の意をいふとき、すなわち「捨取不捨の利益にあずけたもつなり」と窺うことができます。弥陀の誓願の不思議に助けられて往生できると信じて起る念仏、これが生きた念仏だと言われます。聖人は称名念仏という形式の奥にある心を見つめられ、一切を救って止まない御仏の慈悲をかみしめる中で起る念仏こそ生きた念仏だとされました。

真実の信心に生きた妙好人たちは御仏の慈悲を感じ取る鋭い感性をそなえ、学者も及ばない慈悲の世界に没入されていかれました。

私どもも門徒の一人として妙好人の鋭敏な感性を見習いたいものです。



浅原オ一

人の物はなんぼでもほしい  
とうてもとうてもほしい  
ほしいほしい  
角が生え

12月連絡

学習会 中止。 茶話会はあり。